

※下記の下線字ページを記入し、下線なしのフォントに変換後出力してください。  
この行は最終的に削除してください。

## 耐震改修報告書目次

§ 1 建築物及び耐震改修診断結果概要	
1-1 建築物及び構造概要(診断) .....	<u>P1</u>
1-2 耐震診断概要 .....	<u>P1</u>
1-3 耐震診断結果 .....	<u>P1</u>
1-4 耐震改修建築物及び構造概要(改修) .....	<u>P1</u>
1-5 耐震改修概要 .....	<u>P1</u>
1-6 耐震改修結果 .....	<u>P1</u>
1-7 配置図(診断) .....	<u>P1</u>
1-8 診断平面図・立面図・構造図 .....	<u>P1</u>
1-9 改修平面図・立面図・構造図 .....	<u>P1</u>
1-10外観写真(診断) .....	<u>P1</u>
§ 2 現地調査(診断) .....	<u>P1</u>
§ 3 耐震診断方針(診断) .....	<u>P1</u>
§ 4 耐震診断計算(診断) .....	<u>P1</u>
§ 5 耐震診断添付資料(診断) .....	<u>P1</u>
§ 6 改修現地調査	
6-1 改修調査概要 .....	<u>P1</u>
6-2 改修調査結果 .....	<u>P1</u>
6-2-1 改修図面との照合 .....	<u>P1</u>
6-2-2 改修建物被災履歴 .....	<u>P1</u>
6-2-3 改修コンクリートのひび割れ .....	<u>P1</u>
6-2-4 改修コンクリートの強度 .....	<u>P1</u>
6-2-5 改修コンクリートの中性化 .....	<u>P1</u>
6-2-6 改修経年指標 .....	<u>P1</u>
6-2-7 改修付表等(調査結果一覧表) .....	<u>P1</u>
§ 7 耐震改修方針	
7-1 耐震改修内容 .....	<u>P1</u>
7-2 耐震改修基準等 .....	<u>P1</u>
7-3 改修使用電算プログラム .....	<u>P1</u>
7-4 改修使用材料及び強度 .....	<u>P1</u>
§ 8 耐震改修計算	
8-1 改修形状指標 .....	<u>P1</u>
8-2 改修CT-F図 .....	<u>P1</u>
8-3 改修第二種構造要素の検討 .....	<u>P1</u>
8-4 改修破壊形式図 .....	<u>P1</u>
§ 9 耐震改修添付資料	
9-1 耐震改修詳細検討資料 .....	<u>P1</u>

§ 1 建築物及び耐震診断結果概要

1-1 建築物概要及び構造概要

(診断：〇〇評価委員会の評価番号〇〇〇より)

発注者		〇〇〇			
耐震診断	診断者	〇〇〇		※報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。	
	診断者住所	〇〇〇			
	診断年	平成00年00月			
	診断評価番号	HA0 34-00-0000			
診断建物名称		〇〇〇			
診断建物所在地		〇〇〇			
診断建物設計者		〇〇〇			
診断建物施工者		〇〇〇			
診断建物規模		地上	0	階	建築物の特徴 ※下記の項目などを記述する。 ・建築物の軸線
		地下	0	階	
		塔屋	0	階	
診断建物竣工年		昭和00年		・増築の有無	
主要用途		〇〇〇		・増築・改修の時期	
主要仕上		外壁	〇〇〇		・外壁、屋根の仕上げ
		屋根	〇〇〇		
建物形状	平面形	〇〇〇		・建物形状の特徴	
	立面形	〇〇〇			
建物面積	建築面積	0	m <sup>2</sup>	・床面積の内訳	
	延べ面積	0	m <sup>2</sup>		
	0	階	0		m <sup>2</sup>
建物高さ	軒高さ	0	m		
	0	階	0		m
建物長さ	X方向	0	m		
	Y方向	0	m		
隣接建物		〇〇〇		・隣接建物 ・EXP. Jの間隔、高さ比 ・避難階段・滑り台の有無、接合方法 ・その他重要事項	

建築物概要  
\*耐震診断

(診断：評価番号〇〇〇より)

構造概要 *耐震診断	構造種別	〇〇〇		構造の特徴
	架構形式	X方向	〇〇〇	※下記の項目などを記述する。 ・架構形式
		Y方向	〇〇〇	
	スパン数	X方向	0	スパン
		Y方向	0	スパン
	スパン長	X方向	0	m(代表スパン)
		Y方向	0	m(代表スパン)
	極脆性柱	X方向	極脆性柱の有無	
		Y方向	極脆性柱の有無	
	下階壁抜け柱	X方向	下階壁抜け柱の有無	
		Y方向	下階壁抜け柱の有無	
	大スパン梁	X方向	大スパン梁の有無	
		Y方向	大スパン梁の有無	
	持出し部材	X方向	持出し部材の有無	
		Y方向	持出し部材の有無	
	層重量	0 階	0	kN
単位重量	0 階	0	kN/m <sup>2</sup>	
柱壁量	0 階	X方向	Y方向	
		0	0	
基礎地盤	基礎形式	〇〇〇		
	長期支持力	〇〇〇		
	支持層	〇〇〇		
	支持深さ	〇〇〇		
	地盤種別	〇〇〇		
	敷地状況	〇〇〇		
その他	〇〇〇		・敷地	
			・その他重要事項	

(診断：評価番号〇〇〇より)

使用材料・強度*耐震診断	既存コンクリート	強度	設計基準強度	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>	材料の特徴 ※下記の項目などを記述する。 ・コンクリート強度、中性化の内訳	
		<u>0</u> 階	推定強度	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
		中性化	基準値	<u>0</u> mm		
			測定値の最大	<u>0</u> mm		
			各階の中性化深さ	<u>0</u> 階	<u>0</u> mm	
	既存鉄筋		材質	降伏点強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)	
		主筋	<u>〇〇〇</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
		帯筋	<u>〇〇〇</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
		あばら筋	<u>〇〇〇</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
		壁筋	<u>〇〇〇</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
	スラブ筋	<u>〇〇〇</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>			
既存鉄骨	柱	材質	降伏点強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)		
	梁	<u>〇〇〇</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>			
	ボルト	材質	引張強度	・鋼材の引張強度の根拠 (割増の有無)		
		<u>〇〇〇</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>			
	その他	<u>〇〇〇</u>		・その他重要事項		

## 1-2 耐震診断概要

(診断：評価番号〇〇〇より)

現 地 調 査 ＊ 耐 震 診 断	設計図書の有無	<u>〇〇〇</u>	特記事項
	被災履歴	<u>〇〇〇</u>	※下記の項目などを記述する。
	図書の照合	<u>〇〇〇</u>	・調査方法、箇所について発注者と協議
	ひび割れ劣化	<u>〇〇〇</u>	・左記項目の内、重要な項目
	不同沈下	<u>〇〇〇</u>	・CAD化した図面の発注者の承認
	部材寸法	<u>〇〇〇</u>	
	基礎状況	<u>〇〇〇</u>	
	コンクリートブロック	<u>〇〇〇</u>	・コンクリートブロック
	非構造部材	<u>〇〇〇</u>	・非構造部材
	その他	<u>〇〇〇</u>	・その他重要事項 ・鉄骨がある場合はその他で記載する。

(診断：評価番号〇〇〇より)

モデル化および計算手法*耐震診断	節点振り分け	<u>〇〇〇</u>	特記事項
	仮想仕事法	<u>〇〇〇</u>	※下記の項目などを記述する。
	荷重増分法	<u>〇〇〇</u>	・回転壁
	解析用外力分布	<u>〇〇〇</u>	・外力分布
	剛床・ゾーニング	<u>〇〇〇</u>	・使用プログラム、バージョン
	部材内法寸法位置	<u>〇〇〇</u>	・その他重要事項
	壁	<u>〇〇〇</u>	
	下階壁抜け柱	<u>〇〇〇</u>	
	軸力変動	<u>〇〇〇</u>	
	柱耐力	<u>〇〇〇</u>	
	梁耐力	<u>〇〇〇</u>	
	第2種構造要素	<u>〇〇〇</u>	
	偏心率の算出方法	<u>建防協のB法による。</u>	
使用プログラム	<u>〇〇〇</u>		

1-3 耐震診断結果

(診断：評価番号〇〇〇より)

耐震診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。				
耐震診断次数	〇〇〇			※発注者と協議を記述する。	
耐震診断諸数値	地域係数： $Z = 0.00$				
	用途係数： $U = 0.00$				
	地盤指標： $G = 0.00$				
耐震診断諸数値	振動特性係数： $R_t = 0.00$				
	経年指標： $T = 0.00$				
	RC造： $S_T = 0.00$				
耐震診断諸数値	形状係数 $S_D$ は建防協のB法とする				
	外力分布補正係数は $\Delta_i$ 分布とする。				
	RC造： $I_s = E_o \cdot T \cdot S_D / (Z \cdot R_t \cdot G)$				
耐震診断諸数値	RC造： $q = C_{TU} \cdot S_D / (S_T \cdot Z \cdot G)$				
	RC造： $I_s = E_o \cdot T \cdot S_D / (Z \cdot R_t \cdot G)$				
	RC造： $q = C_{TU} \cdot S_D / (S_T \cdot Z \cdot G)$				
耐震診断判定指標	$I_{so} = 0$ $q \geq 0$			※発注者と協議を記述する。	
耐震診断結果	X方向				考察
	階	$I_s$ 値	q値	判定	※下記の項目などを記述する。
	1階	0.00	0.00	〇〇〇	・第二種構造要素
	Y方向				・極脆性柱
	階	$I_s$ 値	q値	判定	・下階壁抜け柱
	1階	0.00	0.00	〇〇〇	・判定結果考察
	特記事項				
	※下記の項目などを記述する。				
	・コンクリート強度				
	・地盤				
・コンクリートブロック					
・非構造部材					
・隣接建物					
・大スパン					
・持出し梁					
・鉄骨					
・詳細な調査の必要性					
・改修の必要性					
・補修の必要性					
・その他重要事項					

X方向												
	階	$\Sigma W$ (kN)	$E_o$	$S_D$	T	$C_{TU} \cdot S_D$	$I_s$	q	F1	F2	F3	破壊形式
→ 正 加 力	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
← 負 加 力	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
Y方向												
	階	$\Sigma W$ (kN)	$E_o$	$S_D$	T	$C_{TU} \cdot S_D$	$I_s$	q	F1	F2	F3	破壊形式
→ 正 加 力	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
← 負 加 力	1階	0.0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	CB. WB. WS
凡例												
※下記の記述は参考例である。												
CB 曲げ柱 : CS せん断柱 : CSS 極脆性柱												
CWB 壁付曲げ柱 : CWS 壁付せん断柱 : CWSS 壁付極脆性柱												
WB 曲げ壁 : WS せん断壁 : WR 回転壁												
WWB 曲げそで壁 : WWS せん断そで壁												
特記事項												
※決定した方向などを記述する。												
※その他重要事項												
判定基準は以下とする												
(1) $I_s$ が0.3未満又はqが0.5未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。												
(2) (1)、(3)以外・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。												
(3) $I_s$ がIso以上かつqが目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。												



1-4 耐震改修建築物概要及び構造概要

(改修)

発注者		<u>〇〇〇</u>		
耐震改修	改修診断者	<u>〇〇〇</u>		※診断評価取得状況などを記述する。 ※改修報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。
	改修診断者住所	<u>〇〇〇</u>		
	改修診断年	<u>平成00年00月</u>		
	改修評価番号	<u>HA0 34-00-0000</u>		
診断建物名称		<u>〇〇〇</u>		
診断建物所在地		<u>〇〇〇</u>		
診断建物設計者		<u>〇〇〇</u>		
診断建物施工者		<u>〇〇〇</u>		
診断建物規模		地上	<u>0</u> 階	建築物の特徴 ※診断評価取得後の経緯などを記述する。 ※診断評価取得後の隣接建物の状況などを記述する。
		地下	<u>0</u> 階	
		塔屋	<u>0</u> 階	
診断建物竣工年		昭和 <u>00</u> 年		
主要用途		<u>〇〇〇</u>		※その他重要事項
建物形状	平面形	<u>〇〇〇</u>		
	立面形	<u>〇〇〇</u>		
建物面積	建築面積	<u>0</u>	m <sup>2</sup>	
	延べ面積	<u>0</u>	m <sup>2</sup>	
	<u>0</u> 階	<u>0</u>	m <sup>2</sup>	
建物高さ	軒高さ	<u>0</u>	m	
	<u>0</u> 階	<u>0</u>	m	
建物長さ	X方向	<u>0</u>	m	
	Y方向	<u>0</u>	m	
隣接建物		<u>〇〇〇</u>		
建築物概要*耐震改修				

(改修)

構造概要*耐震改修	構造種別	<u>〇〇〇</u>		構造の特徴	
	架構形式	X方向	<u>〇〇〇</u>		※診断評価取得後の変更など記述する。 ※発注者との協議事項など記述する。
		Y方向	<u>〇〇〇</u>		
	スパン数	X方向	<u>0</u>	スパン	※診断評価取得後の隣接建物の状況など記述する。
		Y方向	<u>0</u>	スパン	
	スパン長	X方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	
		Y方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	
	極脆性柱	X方向	<u>極脆性柱の有無</u>		・極脆性柱の位置
		Y方向	<u>極脆性柱の有無</u>		
	下階壁抜け柱	X方向	<u>下階壁抜け柱の有無</u>		・下階壁抜け柱の位置
		Y方向	<u>下階壁抜け柱の有無</u>		
	大スパン梁	X方向	<u>大スパン梁の有無</u>		・大スパン梁の位置
		Y方向	<u>大スパン梁の有無</u>		
	持出し部材	X方向	<u>持出し部材の有無</u>		・持出し部材の位置
		Y方向	<u>持出し部材の有無</u>		
	層重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN	
	単位重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN/m <sup>2</sup>	
	柱壁量	<u>0</u> 階	X方向	Y方向	
			<u>0</u>	<u>0</u>	
基礎地盤	基礎形式	<u>〇〇〇</u>			
	長期支持力	<u>〇〇〇</u>			
	支持層	<u>〇〇〇</u>			
	支持深さ	<u>〇〇〇</u>			
	地盤種別	<u>〇〇〇</u>			
	敷地状況	<u>〇〇〇</u>			
改修箇所及び方法	<u>〇〇〇</u>			※改修箇所、方法などを記述する。 ※その他重要事項	

(改修)

使用材料・強度*耐震改修	既存コンクリート	強度	設計基準強度	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>	材料の特徴 <u>※診断評価取得後の変更など記述する。</u>
		<u>0</u> 階	推定強度	診断強度	
		中性化	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>	
	既存鉄筋	中性化	基準値	<u>0</u> mm	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)
			測定値の最大	<u>0</u> mm	
			各階の中性化深さ	<u>0</u> 階 <u>0</u> mm	
	既存鉄骨	主筋 帯筋 あばら筋 壁筋 スラブ筋	材質	降伏点強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)
			<u>000</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>	
			<u>000</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>	
			<u>000</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>	
<u>000</u>			<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
改修コンクリート	柱 梁	材質	降伏点強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)	
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
改修鉄筋	ボルト	材質	引張強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)	
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
		設計基準強度	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
改修鉄骨	主筋 その他	材質	降伏点強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)	
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
改修鉄骨	鉄骨	材質	降伏点強度	・鋼材の降伏点強度の根拠 (割増の有無)	
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
改修鉄骨	ボルト	材質	引張強度	・鋼材の引張強度の根拠 (割増の有無)	
		<u>000</u>	<u>0</u> N/mm <sup>2</sup>		
その他		<u>000</u>		<u>※その他重要事項</u>	

## 1-5 耐震改修概要

(改修)

追加現地調査\*耐震改修

設計図書	<u>〇〇〇</u>	特記事項 <u>※発注者との協議事項など記述する。</u> <u>※診断評価取得後の追加調査などを記述する。</u> <u>※その他重要事項</u>
被災履歴	<u>〇〇〇</u>	
図書の照合	<u>〇〇〇</u>	
ひび割れ劣化	<u>〇〇〇</u>	
不同沈下	<u>〇〇〇</u>	
部材寸法	<u>〇〇〇</u>	
基礎状況	<u>〇〇〇</u>	
鉄骨部	<u>〇〇〇</u>	
コンクリートブロック	<u>〇〇〇</u>	
非構造部材	<u>〇〇〇</u>	
その他	<u>〇〇〇</u>	

モデル化および計算手法*耐震改修	節点振り分け	<u>〇〇〇</u>	特記事項
	仮想仕事法	<u>〇〇〇</u>	<u>※診断評価取得後の変更など記述する。</u>
	荷重増分法	<u>〇〇〇</u>	<u>※その他重要事項</u>
	解析用外力分布	<u>〇〇〇</u>	
	剛床・ゾーニング	<u>〇〇〇</u>	
	部材内法寸法位置	<u>〇〇〇</u>	
	壁	<u>〇〇〇</u>	
	下階壁抜け柱	<u>〇〇〇</u>	
	軸力変動	<u>〇〇〇</u>	
	柱耐力	<u>〇〇〇</u>	
	梁耐力	<u>〇〇〇</u>	
	第2種構造要素	<u>〇〇〇</u>	
	偏心率の算出方法	<u>建防協のB法による。</u>	
使用プログラム	<u>〇〇〇</u>		

耐震改修診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。			
耐震改修診断次数	〇〇〇			※発注者と協議を記述する。
耐震改修諸数値	地域係数：Z = <u>0.00</u>			
	用途係数：U = <u>0.00</u>			
	地盤指標：G = <u>0.00</u>			
耐震改修諸数値	振動特性係数：R <sub>t</sub> = <u>0.00</u>			
	経年指標：T = <u>0.00</u>			
	RC造：S <sub>T</sub> = <u>0.00</u>			
耐震改修諸数値	形状係数S <sub>D</sub> は建防協のB法とする			
	外力分布補正係数はΔi分布とする。			
	RC造：I <sub>s</sub> = E <sub>o</sub> · T · S <sub>D</sub> / (Z · R <sub>t</sub> · G)			
耐震改修諸数値	RC造：q = C <sub>TU</sub> · S <sub>D</sub> / (S <sub>T</sub> · Z · G)			
	I <sub>so</sub> = <u>0</u> <u>q ≥ 0</u>			
	※発注者と協議を記述する。			
耐震改修結果	X方向			考察
	階	I <sub>s</sub> 値	q値	判定
	1階	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>〇〇〇</u>
	Y方向			・第二種構造要素
	階	I <sub>s</sub> 値	q値	判定
	1階	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>〇〇〇</u>
	・極脆性柱			
	・下階壁抜け柱			
	・判定結果考察			
	特記事項			
※下記の項目などを記述する。				
・コンクリート強度				
・地盤				
・コンクリートブロック				
・非構造部材				
・隣接建物				
・大スパン				
・持出し梁				
・鉄骨				
・詳細な調査の必要性				
・改修の必要性				
・補修の必要性				
・その他重要事項				

X方向 ※上段は診断結果、下段は改修結果を示す。												
	階	$\Sigma W$ (kN)	$E_o$	$S_D$	T	$C_{TU} \cdot S_D$	$I_s$	q	F1	F2	F3	破壊形式
→ 正 加 力	0階	<u>0.0</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	CB. WB. WS
		<b>0.0</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>CB. WB. WS</b>
	1階	<u>0.0</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	CB. WB. WS
		<b>0.0</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>CB. WB. WS</b>
← 負 加 力	0階	<u>0.0</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	CB. WB. WS
		<b>0.0</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>CB. WB. WS</b>
	1階	<u>0.0</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	CB. WB. WS
		<b>0.0</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>CB. WB. WS</b>
Y方向 ※上段は診断結果、下段は改修結果を示す。												
	階	$\Sigma W$ (kN)	$E_o$	$S_D$	T	$C_{TU} \cdot S_D$	$I_s$	q	F1	F2	F3	破壊形式
→ 正 加 力	0階	<u>0.0</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	CB. WB. WS
		<b>0.0</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>CB. WB. WS</b>
	1階	<u>0.0</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	CB. WB. WS
		<b>0.0</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>CB. WB. WS</b>
← 負 加 力	0階	<u>0.0</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	CB. WB. WS
		<b>0.0</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>CB. WB. WS</b>
	1階	<u>0.0</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	<u>0.00</u>	CB. WB. WS
		<b>0.0</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>0.00</b>	<b>CB. WB. WS</b>
凡例												
※下記の記述は参考例である。												
CB 曲げ柱 : CS せん断柱 : CSS 極脆性柱												
CWB 壁付曲げ柱 : CWS 壁付せん断柱 : CWSS 壁付極脆性柱												
WB 曲げ壁 : WS せん断壁 : WR 回転壁												
WWB 曲げそで壁 : WWS せん断そで壁												
V I ブレース軸降伏 : V II ブレース接合部破壊 : VR ブレース回転												
特記事項												
※決定した方向などを記述する。												
※その他重要事項												
判定基準は以下とする												
(1) $I_s$ が0.3未満又はqが0.5未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。												
(2) (1)、(3)以外・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。												
(3) $I_s$ が $I_{so}$ 以上かつqが目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。												